



二期一会の楽しみ

林家たい平

美術大学でデザインを学んだ。大学の近所には紙専門のお店があつて、そこに行つて紙を選んでいる時が「美大生」を感じるちょっと特別な時間だった。しばらくすると、紙見本帳が配られた。紙の質など大まかに分類されていて、たてが五センチ、よこが十センチくらい。厚みは様々で、それが二十冊近く、二段のラックのなかに納まっているというもの。自分の飾り気のないアパートに連れ帰つて、机の上に置くと、途端にデザイン事務所のデスクのようになって嬉しかったことを覚えている。課題の制作に追われて疲れた時など、意味もなく、その紙見本帳を取り出して「この紙で何を作ったら面白いだろう?」なんて空想にふけつたり

もした。グラムで紙の厚みを注文したりするようにになると気持ちはずでプロのデザイナーだった。

今でも時おり絵を描いたりするので材質さんに出かけるが、まっ先に向かうのは紙売り場だ。注文した紙を、大きな引き出しから引っぱり出し手際良く数えて、大切に大切に扱って包装してもらっているのを見ているだけでもワクワクする。

ご覧いただければお解りのように、デザイナーにならずに落語家になった。前座修業を終えると「美大卒の落語家」ということで絵の依頼がいくつか来るようになった。落語の仕事を終えてじっくり描くのに適していたのが野菜。いつまでもじつとモデルになってくれるし、美しさの発見があるから飽きない。優しさを表現したくて選んだ画材はパステル鉛筆。ロットリングペンで輪郭を描き、そこへ着色していくのだが、ものすごく紙を選ぶのだ。パステルは「粉」だから付着が悪いと発色しない。表面がツルツルではダメ、かと言って凸凹がありすぎてもダメ。指や綿棒などでこすったりするので、柔らかすぎではダメ、強すぎでは紙にパステルが入っていかないのがダメと。本当に紙選びが難しい。スケッチブック



はやしや・たいへい●落語家。埼玉県生まれ。武蔵野美術大学造形学部卒業。1988年林家こん平に入門。92年二ツ目に昇進し翌年NHK新人演芸コンクール優秀賞受賞。2000年に真打昇進。04年と08年に国立演芸場花形演芸会金賞受賞。08年第58回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。14年一般社団法人落語協会の理事に就任。武蔵野美術大学客員教授。

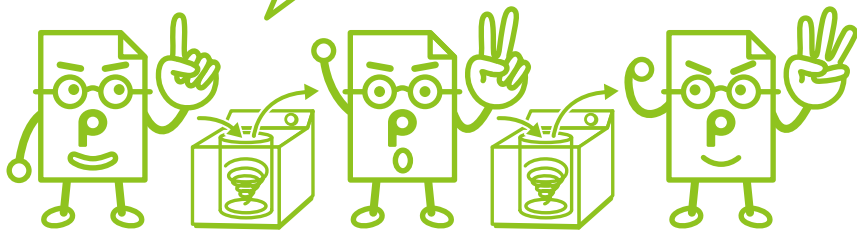
クには、水彩画用とか、パステル用と書いてはあるものの、触っただけではわからないので買って帰って、実際に描いてみる。そんな中、自分にとってベストなスケッチブックを発見。もうこの紙しかない!と。一冊使い終わって買いに行くのと、どこを探してもない。店員さんに聞くと、製造中止になっているとのこと。あの時もう何冊か買っておけばよかったと後悔しても二度と会えない。人との出会いと同じで二期一会なのだ。すばらしく楽しい時間を過ごさせてもらったことに感謝し、又、新しい紙との出会いを楽しんでいる。

今、相思相愛なのは細川紙という和紙。伝統的な手漉きの和紙は質実剛健、武士のような風格を持っている。量感、質感共に良く、日本人の「紙」に対する想いの原点に立ちかえれるような気がするのだ。お世話になった人への礼状をしたためる。私の咄文を補って伝えてくれる優しさが「紙」にはあると思っている。

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

紙の人生は、3回以上ある。

紙は「パルプ」と呼ばれる木材などの植物繊維の集合体。だから、ときほぐして、インクなどの余分なものを取り除けば、また紙になれるんです。ちょうど洋服を洗うみたいに、紙専用の洗濯機でかき混ぜると、トロトロの繊維の状態に。何度もくりかえすと繊維は劣化していくけれど、一般的には3~5回もリサイクルできるんだって。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は 11月3日号、増田明美さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Shiro Miyake